

主日礼拝

2026年7月5日 10時20分～

司式:

奏楽:

「パンを焼くときに」

『エレミヤ書』では、主が偽預言者たちを厳しく裁かれる理由が語られています。天地を満たされる神は、人の思いや行いをすべてご存じです。それにもかかわらず、偽預言者たちは自分の見た夢を神の言葉であるかのように語り、人々を惑わしていました。彼らは自分勝手な考えを「仰せ」と偽って語り、民を真理から遠ざけました。しかし、主の言葉は夢や人間の空想とは異なり、「火のよう」に人の罪を焼き尽くし、「岩を打ち砕く槌のよう」に頑なな心を打ち砕く力を持ちます。神はご自身が遣わしていない者が勝手に預言することを決して認められず、そのような偽りの言葉は民に何の役にも立たないと宣言されます。この箇所は、神の言葉を語る者には真実と従順が求められ、人間の願望や思いつきではなく、神から託された言葉だけを忠実に伝える責任があることを教えています。

『ガラテヤの信徒への手紙』でパウロは、異邦人信徒が割礼を受けることによって救われようとする考えを強く戒めます。もし割礼を救いの条件として受け入れるなら、その人は律法全体を守る義務を負い、キリストによる恵みから離れてしまうこととなります。割礼の有無そのものには何の価値もなく、大切なのは「愛によって働く信仰」です。ガラテヤの信徒たちは順調に信仰の道を歩んでいましたが、ある者たちの教えに惑わされ、真理に従うことを妨げられていました。そのような勧めは神から出たものではなく、「僅かなパン種が生地全体を膨らませる」という言葉のように、誤った教えは共同体全体に広がる危険があります。しかしパウロは、主にあって彼らが正しい歩みに立ち返ると確信しています。パウロがなお迫害を受けている事実が、十字架による救いに生きていることを明らかにしています。

《神の招き》

前 奏 『たとえば私が (教会福音讃美歌 395 番)』 野中宏樹  
 招 詞 箴言9章5～6節  
 賛 美 歌 17

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り  
 聖 書 エレミヤ書23章23～32節 (旧約1206頁)  
 ガラテヤの信徒への手紙5章2～11節 (新約342頁)

子ども説教 詩編52編1～11節 (61頁)

交読詩編 433  
 賛美歌 「パンを焼くときに」 八木浩史牧師

説教 祈 禱  
 賛美歌 教会福音讃美歌395

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条  
 献金 献金当番  
 祈 禱  
 主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌 栄 27  
 祝 福  
 報 告 7月誕生者祝福  
 後 奏

礼拝当番: (役員: ) 献金当番:  
 音響: 映像: